

**令和2年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和3年度調査）**  
**医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進に係る評価等に関する実施状況調査**

- 特に指定がある場合を除いて、令和3年7月1日現在の状況についてお答えください。  
 ●ご回答の際は、該当する番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値等をご記入ください。  
 （ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「○（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。

**1. 貴施設の概要等についてお伺いします。**

① 貴施設の薬剤師数（薬剤部以外に所属する薬剤師も含めた全体の人数）を常勤、非常勤別にご記入ください。

	常 勤	非常勤	
		実人数	常勤換算人数 <sup>注1</sup>
薬剤師	( ) 人	( ) 人	( ) 人

注1. 常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第2位を切り捨てし、小数点以下第1位までお答えください。  
 以下、常勤換算数をたずねる設問については同じ方法で算出してください。

- 1週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の1週間の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間)  
 ■ 1か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の1か月の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)

② 貴施設薬剤部門に所属する薬剤師数及びその他の職員を常勤、非常勤別にご記入ください。

		常 勤	非常勤	
			実人数	常勤換算人数 <sup>注1</sup>
1) 薬剤師		( ) 人	( ) 人	( ) 人
2) その他の職員	① 事務補助者	( ) 人	( ) 人	( ) 人
	② その他	( ) 人	( ) 人	( ) 人

③ 貴施設における、令和2年6月及び令和3年6月の1か月間における常勤薬剤師1人あたりの平均勤務時間、夜間勤務体制、平均当直回数、平均オンコール担当回数等についてご記入ください。

		令和2年6月	令和3年6月
1) 1人あたりの平均勤務時間 <sup>注2</sup>		約 ( ) 時間	約 ( ) 時間
2) 上記1)のうち、新型コロナウイルスワクチン接種に関する業務 <sup>注3</sup> の時間			約 ( ) 時間
3) 夜間勤務体制 (回答時点の主なものに、○を1つ)	01. 日勤のみ	02. 当直 <sup>注4</sup>	03. オンコール <sup>注5</sup>
	04. 2交代制 <sup>注6</sup>	05. 3交代制 <sup>注7</sup>	06. シフト勤務 <sup>注8</sup> （早出、遅出等）
	07. その他（具体的に： )		

注2. 所定労働時間に残業時間を加えた時間

注3. 新型コロナウイルスワクチンの情報収集、品質管理、ワクチン溶解・希釈・分注、副反応等接種後フォロー、予診問診における医薬品服用状況の確認、接種会場におけるアナフィラキシー等の緊急処置薬の整備、等の業務

注4. 薬剤師が夜間勤務している体制をとっていること

注5. 自宅待機等で必要時に呼び出しを受けて対応できる体制をとっていること

注6. 日勤・夜勤が12時間ずつ等といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが同じになる交代勤務

注7. 日勤・準夜勤・深夜勤が8時間ずつの交代勤務

注8. 早出、遅出等の時間差勤務体制をとっていること

※以下の設問4)～7)は、上記③3)で「02.当直」あるいは「03.オンコール」を選んだ施設がお答えください。

4) 当直、オンコールを担当する薬剤師数	常 勤	非常勤
	( ) 人	( ) 人
5) 1人あたりの当直・オンコール担当平均回数 <sup>注9</sup>	令和2年6月	令和3年6月
	( ) 回	( ) 回
6) 当直・オンコール時の業務内容について（あてはまる番号すべてに○）		
01. 入院患者に対する内用薬・外用薬調剤		
02. 入院患者に対する注射薬調剤		
03. 外来患者に対する内用薬・外用薬調剤・交付業務		
04. 外来患者に対する注射薬調剤		
05. 入院患者に対する無菌製剤処理業務		
06. 外来患者に対する無菌製剤処理業務		
07. 薬品管理業務（発注、在庫管理、マスタ管理等）		
08. 病棟薬剤業務		
09. その他（具体的に )		

注9. 土曜日・日曜日の日直はそれぞれ1回として数える

	令和2年6月	令和3年6月
7) 当直・オンコール1回当たり処方箋平均枚数	( ) 枚/回	( ) 枚/回

※すべての施設の方がお答えください。

④ 貴施設における令和2年6月及び令和3年6月の1か月間における処方箋枚数についてご記入ください。

	令和2年6月	令和3年6月
1) 外来患者の院外処方箋	( ) 枚	( ) 枚
2) 外来患者の院内処方箋	( ) 枚	( ) 枚
3) 入院患者の処方箋	( ) 枚	( ) 枚

⑤ 貴施設における病棟数、薬剤師が配置されている病棟数についてご記入ください。

※病棟薬剤業務実施加算を算定していない場合もすべて含めて記入してください。

	令和2年6月	令和3年6月
1) 貴施設における全病棟数	( ) 病棟	( ) 病棟
2) 上記1)のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	( ) 病棟	( ) 病棟
3) 療養病棟・精神病棟の病棟数	( ) 病棟	( ) 病棟
4) 上記3)のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	( ) 病棟	( ) 病棟
5) 集中治療室等 <sup>注10</sup> の病棟数	( ) 病棟	( ) 病棟
6) 上記5)のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	( ) 病棟	( ) 病棟

注10. 救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、又は総合周産期特定集中治療室管理料のいずれかを算定している病棟

⑥ 各病棟に配置されている薬剤師数を常勤、非常勤別にご記入ください。

	令和2年6月			令和3年6月		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算人数		実人数	常勤換算人数
1) 各病棟に配置されている薬剤師数	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人
2) 上記1)のうち、病棟専任の薬剤師数	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人
3) 上記2)のうち、療養病棟・精神病棟に配置されている薬剤師数	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人
4) 上記2)のうち、集中治療室等 <sup>注10</sup> に配置されている薬剤師数	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人

## 2. 薬剤師の働き方についてお伺いします。

① 薬剤師の業務について、1年前と比較してどのように変わりましたか。(〇はそれぞれ1つ)

	とても増えた	増えた	変化はない	減った	とても減った
1) 薬剤師による入院時における持参薬の確認及び、確認結果に基づく服薬計画の立案	01	02	03	04	05
2) 薬剤師から医師への情報提供	01	02	03	04	05
3) 薬剤師の病棟内のカンファレンス・回診への参加回数	01	02	03	04	05
4) 医師から薬剤師への相談回数	01	02	03	04	05
5) 看護職員から薬剤師への相談回数	01	02	03	04	05
6) 薬剤師による処方提案の件数	01	02	03	04	05
7) 薬剤師による臨床検査(肝・腎機能、電解質・血中薬物濃度モニタリングなど)の提案の件数	01	02	03	04	05
8) 薬剤師の関与による副作用・相互作用等回避の件数	01	02	03	04	05
9) 薬剤師の関与による副作用報告の件数	01	02	03	04	05
10) 薬剤師による医薬品の流量又は投与量等の計算・確認回数	01	02	03	04	05
11) 医薬品リスク管理計画(RMP: Risk Management Plan)に関する情報等を活用した医薬品安全管理に関する業務	01	02	03	04	05
12) 薬剤総合評価調整加算の件数(算定できない病棟の場合は同様の業務の実施回数)	01	02	03	04	05
13) 退院時薬剤情報管理指導料の件数(算定できない病棟の場合は同様の業務の実施回数)	01	02	03	04	05
14) 医薬品情報室での情報収集・管理	01	02	03	04	05

② 貴施設の薬剤師の従業員数はどのような状況ですか。(○は1つ)	
01. 薬剤師の従業員数は業務量に対して少ない	→ ②-1 へ
02. 薬剤師の従業員数は業務量に対して適切である	→ ②-2 へ
03. 薬剤師の従業員数は業務量に対して多い	→ ②-2 へ

※以下の設問②-1は、②で「01. 薬剤師の従業員数は業務量に対して少ない」を選んだ施設の方がお答えください。

②-1 薬剤師の従業員数が少ないことにより、十分に実施できていない業務は何ですか。 (あてはまる番号すべてに○)	
01. 入院患者に対する調剤業務	
02. 入院患者に対する病棟業務	
03. 外来患者に対する調剤業務	
04. 外来患者に対する薬剤業務(外来化学療法室での患者指導業務など)	
05. 医薬品情報管理業務	
06. 治験・臨床研究関連業務	
07. 教育・研究業務	
08. その他	

※すべての施設の方がお答えください。

②-2 令和2年4月以降、薬剤師の増員をしましたか。(○は1つ)			
01. 増員した		02. 増員していない → ②-4 へ	
「01. 増員した」を選択した場合、人数をご記入ください。			
増員した薬剤師数 (常勤)	( ) 人	増員した薬剤師数 (非常勤)	実人数 ( ) 人 常勤換算 ( ) 人 → ②-3 へ

※以下の設問②-3は、上記②-2で「01. 増員した」を選んだ施設がお答えください。

②-3 どのような理由・目的で増員しましたか。(あてはまる番号すべてに○)	
01. 病棟薬剤業務実施加算の評価が拡充されたため	02. 医師の業務をタスク・シフトするため
03. 病棟薬剤業務を充実させるため	04. ポリファーマシー解消の取組を充実させるため
05. 抗菌薬の適正使用の推進に関する取組を充実させるため	06. 円滑な入院医療の提供、病棟負担軽減のために、入院前に服用中の薬剤の確認等を実施するため
07. 退院時の薬学管理指導を充実するため	08. 入院患者に対する調剤業務が増えたため
09. 外来患者に対する調剤業務が増えたため	10. 外来化学療法室での患者指導業務を充実させるため
11. 医薬品情報管理業務を充実させるため	12. 治験・臨床研究関連業務を充実させるため
13. 教育・研究業務を充実させるため	14. その他(具体的に: )
最もあてはまる理由・目的は何ですか。(上記選択肢から1つ、番号を記入)	

※以下の設問②-4は、上記②-2で「02. 増員していない」を選んだ施設がお答えください。

②-4 増員しなかった理由をお選びください。(あてはまる番号すべてに○)	
01. 病棟薬剤業務実施加算の評価が不十分のため	02. 人材確保が難しかったため
03. 業務量に変化がなかったため	04. 薬剤部門のその他の職員を増員したため
05. その他(具体的に: )	
最もあてはまる理由は何ですか。(上記選択肢から1つ、番号を記入)	

### 3. 薬剤師の病棟業務等についてお伺いします。

① 貴施設では、病棟薬剤業務実施加算の施設基準の届出をしていますか。(あてはまる番号すべてに○)	
01. 病棟薬剤業務実施加算 1	→ ①-1 へ
02. 病棟薬剤業務実施加算 2	→ ①-1 へ
03. いずれも届出をしていない	→ ①-3 へ

※以下の設問①-1 は、上記①で「01.病棟薬剤業務実施加算 1」又は「02.病棟薬剤業務実施加算 2」を選んだ施設の方のみお答えください。

①-1 届出はいつ行いましたか。 (〇は1つ)	
01. 令和 2 年 4 月以降 → ①-2 へ	02. 「01」より前 → ①-4 へ

※以下の設問①-2 は、上記①-1 で「01.令和 2 年 4 月以降」と回答した施設の方のみがお答えください。

①-2 届出を行うためにどのような対応を行いましたか。 (あてはまる番号すべてに〇) →回答後、①-4 へ	
01. 特に何もしていない	02. 常勤薬剤師を増員した
03. 非常勤薬剤師を増員した	04. 薬剤部門の事務補助者を増員した
05. 増員はせずに、薬剤部門の人員配置・勤務体制の見直しを行った	06. 増員はせずに、医師との業務分担を見直した
07. 増員はせずに、看護職員との業務分担を見直した	
08. 増員はせずに、IT やシステム等 (業務日誌や入力テンプレート等) の活用や環境整備を行った	
09. その他 (具体的に	)

※以下の設問①-3 は、前記①で「03.いずれも届出をしていない」を選んだ施設の方のみお答えください。

①-3 病棟薬剤業務実施加算 1 の施設基準の届出をしていないのはなぜですか。 (あてはまる番号すべてに〇)	
01. 算定対象病棟がないため	
02. 病棟業務の実施時間が週 20 時間に満たないため	
03. 入院患者に対する調剤業務負担が大きい	
04. 外来患者に対する調剤業務負担が大きい	
05. 外来化学療法室での患者指導業務負担が大きい	
06. 医薬品情報管理業務負担が大きい	
07. 治験・臨床研究関連業務負担が大きい	
08. 教育・研究業務負担が大きい	
09. 薬剤管理指導以外の病棟薬剤業務のニーズが少ない	
10. その他 (具体的に:	

※すべての施設の方がお答えください。

①-4 令和 3 年 6 月の 1 か月間の、病棟ごとの病棟薬剤業務の実施時間について、それぞれに該当する病棟数をご回答ください。 ※病棟薬剤業務実施加算の施設基準の届出状況にかかわらずご回答ください。
---

	病棟業務実施時間 (1 週/1 病棟あたり)	病棟数	病棟業務実施時間 (1 週/1 病棟あたり)	病棟数
病棟薬剤業務 実施加算を算定 している病棟	1). 30 時間以上	( ) 病棟	3). 20 時間以上 25 時間未満	( ) 病棟
	2). 25 時間以上 30 時間未満	( ) 病棟		
病棟薬剤業務 実施加算を算定 していない病棟	1). 30 時間以上	( ) 病棟	5). 10 時間以上 15 時間未満	( ) 病棟
	2). 25 時間以上 30 時間未満	( ) 病棟	6). 5 時間以上 10 時間未満	( ) 病棟
	3). 20 時間以上 25 時間未満	( ) 病棟	7). 0 時間超 5 時間未満	( ) 病棟
	4). 15 時間以上 20 時間未満	( ) 病棟	8). 0 時間	( ) 病棟

② 貴施設に、病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院している病棟はありますか。 (〇は1つ)	
01. ある → ②-1 へ	02. ない → ③へ

※以下の設問②-1 は、上記②で「01.ある」を選んだ施設の方のみお答えください。

②-1 病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院している病棟で、病棟薬剤業務を実施することはありますか。 (〇は1つ)	
01. ある → ②-2 へ	02. ない → ③へ

※以下の設問②-2～②-4 は、前記②-1 で「01.ある」を選んだ施設の方のみお答えください。

②-2 病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院しており、病棟薬剤業務を実施することがある病棟で算定している入院料をお答えください。（あてはまる番号すべてに○）	
01. 小児入院医療管理料	02. 回復期リハビリテーション病棟入院料
03. 地域包括ケア病棟入院料	04. 精神科救急入院料
05. 精神科急性期治療病棟入院料	06. その他（具体的に：                                  ）
②-3 病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院している病棟で、病棟薬剤業務を実施するタイミングをお答えください。（○は1つ）	
01. 医師の指示	02. 病棟スタッフからの依頼
03. 薬剤師の選択	04. その他（具体的に：                                  ）
②-4 令和３年４～６月に病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院している病棟で、病棟薬剤業務を実施した平均的な時間数（１週／１病棟あたり）をご記入ください。	
病棟薬剤業務の平均実施時間 （期間：令和３年６月の１か月間）	平均（                      ）時間／週／病棟

※すべての施設の方がお答えください。

③ 貴施設では、薬剤管理指導料、退院時薬剤情報管理指導料の算定を行っていますか。（○は1つ）				
01. 行っている		02. 行っていない		
▶「01.行っている」を選択した場合、期間：令和3年6月の1か月間の平均的な算定件数をご記入ください。				
薬剤管理指導料の算定	平均（      ）件／週／病棟	退院時薬剤情報管理指導料の算定	平均（      ）件／週／病棟	

<p>③-1 薬剤管理指導料、退院時薬剤情報管理指導料を別途算定することができない患者に、薬剤管理指導、退院時薬剤情報管理指導を実施することはありますか。（あてはまる番号すべてに○）</p>		
<p>01.薬剤管理指導を実施することがある → ③-2 へ</p>	<p>02.退院時薬剤情報管理指導を実施することがある → ③-2 へ</p>	<p>03.ない → ④へ</p>

※以下の設問③-2～③-5 は、上記③-1 で「01. 薬剤管理指導を実施することがある」「02. 退院時薬剤情報管理指導を実施することがある」を選んだ施設の方のみお答えください。

<b>③-2 薬剤管理指導料、退院時薬剤情報管理指導料を別途算定することができないが薬剤管理指導、退院時薬剤情報管理指導を実施している患者が算定している入院料をお答えください。（あてはまる番号すべてに○）</b>	
<b>01. 小児入院医療管理料</b>	<b>02. 回復期リハビリテーション病棟入院料</b>
<b>03. 地域包括ケア病棟入院料</b>	<b>04. 精神科救急入院料</b>
<b>05. 精神科急性期治療病棟入院料</b>	<b>06. その他（具体的に：                      ）</b>

<p>③-3 薬剤管理指導料、退院時薬剤情報管理指導料を別途算定することができない患者に、薬剤管理指導、退院時薬剤情報管理指導を実施するタイミングをお答えください。（○は1つ）</p>	
01. 医師の指示	02. 病棟スタッフからの依頼
03. 薬剤師の選択	04. その他（具体的に： ）

<p>③-4 薬剤管理指導料、退院時薬剤情報管理指導料を別途算定することができない患者に薬剤管理指導、退院時薬剤情報管理指導を実施する理由をお答えください。（あてはまる番号すべてに○）</p>	
01. 医師の負担軽減のため	02. 医師の要望
03. 病棟スタッフの負担軽減のため	04. 病棟スタッフの要望
05. 薬物療法の質向上のため	06. その他（具体的に ）

<p>③-5 期間：令和3年6月の1か月間に、<b>薬剤管理指導料、退院時薬剤情報管理指導料</b>を別途算定することができない患者に薬剤管理指導、退院時薬剤情報管理指導を実施した平均的な件数をご記入ください。</p>			
薬剤管理指導料	平均（      ）件／週／病棟	退院時薬剤情報管理指導料の算定	平均（      ）件／週／病棟

※すべての施設の方がお答えください。

④ 病棟薬剤業務として実施していることを、以下の(A)と(B)の各区分でそれぞれお答えください。 ※ (B)は該当の病棟がある場合のみ回答 (あてはまる番号すべてに○)		
(A)：病棟薬剤業務実施加算の対象病棟 (B)：病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院している病棟	(A) 病棟	(B) 病棟
01. 患者の医薬品の投薬・注射状況の把握	01	01
02. 医薬品の医薬品安全性情報等の把握、周知	02	02
03. 入院時の持参薬の確認及び服薬計画の提案	03	03
04. 薬剤を同時に投与する場合の相互作用の確認	04	04
05. ハイリスク薬の患者への投与前の説明	05	05
06. 薬剤の投与にあたり、流量又は投与量の計算等の実施	06	06
07. 「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」、以下に掲げる事項 →「07」を選んだ施設は詳細をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)		
71. 薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更や検査のオーダーについて、医師・薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコールに基づき、医師等と協働して実施	71	71
72. 薬剤選択、投与量、投与方法、投与期間等について、医師に対し、積極的に処方を提案	72	72
73. 薬物の血中濃度や副作用のモニタリング等に基づき、副作用の発現状況や有効性の確認を行うとともに、医師に対し、必要に応じて薬剤の変更等を提案	73	73
74. 薬物療法の経過等を確認した上で、医師に対し、前回の処方内容と同一の内容の処方を提案	74	74
75. 入院患者の持参薬の内容を確認し、医師に対し、服薬計画を提案するなどの薬学的管理を実施	75	75
76. 抗悪性腫瘍剤等の適切な無菌調製	76	76
08. 退院時の薬学的管理指導	08	08
09. 他の医療機関又は保険薬局等への情報提供	09	09
10. 他の医療機関又は保険薬局等からの患者情報の整理、確認	10	10
11. 医薬品安全性情報報告	11	11
12. その他 (具体的に： )	12	12

※すべての施設がお答えください。

⑤ 救急外来での薬剤管理業務実施状況について、当てはまるものをお選びください。(○は1つ)	
01. 集中治療室等 <sup>注11</sup> を有した救急外来で薬剤管理業務を行っている → ⑤-1へ	02. 集中治療室等 <sup>注11</sup> を有していない救急外来で薬剤管理業務を行っている → ⑤-1へ
03. 救急外来で薬剤管理業務を実施していない → 4.へ	04. 救急外来がない → 4.へ

注11. 救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、又は総合周産期特定集中治療室管理料のいずれかを算定している病棟

※以下の設問⑤-1及び⑤-2は、上記⑤で「01」「02」のいずれかを選んだ施設の方のみお答えください。

⑤-1 救急外来での薬剤管理業務について、平均的な業務時間数(期間：令和3年6月の1か月間)をご回答ください。
平均業務時間 ( ) 時間/週

⑤-2 救急外来での薬剤管理業務について、業務内容をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)
01. 救急隊員等からの情報に基づく搬送前薬剤の準備
02. 常用薬および退院前数日間に服用した薬剤に関する本人・家族・救急隊員等からの情報収集
03. 患者の常用薬や来院前数日間に服用した薬剤の副作用発現に関する評価と、医師への情報提供
04. 収集した情報および患者背景、常用薬等との薬物間相互作用や重複投与等を考慮した処方設計・医師への処方提案
05. 手術・処置で使用する薬剤の準備および調製
06. 中毒物質の検索と必要な検査の提案および処方提案、薬剤の準備および調製
07. 入院病棟の医師、病棟担当薬剤師等との常用薬・副作用・救急外来での薬物療法等に関する情報共有
08. 救急外来を受診した患者に対する調剤・服薬指導
09. その他 (具体的に )

#### 4. 各種加算の状況等についてお伺いします。

① 薬剤総合評価調整加算 <sup>注12</sup> 、薬剤調整加算 <sup>注13</sup> （期間：令和3年6月の1か月間）は算定しましたか。（○は1つ）			
01. 算定あり		02. 算定なし → ①-1へ	
▶「01.算定あり」を選択した場合、算定件数をご記入ください。			
1) 薬剤総合評価調整加算 <sup>注12</sup>	( ) 件／月	2) 薬剤調整加算 <sup>注13</sup>	( ) 件／月 → ②へ

注12. 入院中の患者について、次のいずれかに該当する場合に、退院時1回に限り所定点数に加算(100点)する。

- イ 入院前に6種類以上の内服薬(特に規定するものを除く。)が処方されていた患者について、当該処方の内容を総合的に評価した上で、当該処方の内容を変更し、かつ、療養上必要な指導を行った場合
- ロ 精神科棟に入院中の患者であって、入院直前又は退院1年前のいずれか遅い時点で抗精神病薬を4種類以上内服していたものについて、当該抗精神病薬の処方の内容を総合的に評価した上で当該処方の内容を変更し、かつ、療養上必要な指導を行った場合

注13. 次のいずれかに該当する場合に、薬剤調整加算として150点を更に所定点数に加算する。

- イ 上記、注12のイに該当する場合であって、当該患者の退院時に処方する内服薬が2種類以上減少した場合
- ロ 上記、注12のロに該当する場合であって、退院日までの間に抗精神病薬の種類数が2種類以上減少した場合その他これに準ずる場合

※①-1 は、上記①で「02.算定なし」を選んだ施設の方のみお答えください ◀

①-1 処方の内容を総合的に評価した上で処方の内容を変更 <sup>注14</sup> する取組を実施したが算定できなかった場合は、その理由としてあてはまる番号をお選びください。（あてはまる番号すべてに○）
01. 該当患者（内服薬が6種類以上処方されていた患者又は抗精神病薬を4種類以上処方されていた患者）がいないため
02. 患者の入院時に、持参薬を確認していないため
03. 処方の内容に変更の必要がなかったため
04. 服用を開始して4週間以内の内服薬がなかったため
05. 服用を開始した日が不明で、服用期間が4週間以上か判断できなかったため
06. 内服薬以外の処方の内容の変更だったため
07. 治験・臨床研究を実施しており、薬剤総合評価 <sup>注15</sup> より優先されるため
08. 医師、薬剤師及び看護師等の多職種によるカンファレンスを実施することが困難だから
09. 薬剤師のマンパワーが不足しているため
10. 医師及び他職種のマンパワーが不足しているため
11. 院内の方針として、入院前の処方の内容を変更することに抵抗があるため
12. その他（具体的に： )
13. あてはまらない（取組を実施していない）

注14. 内服薬の種類数の変更、内服薬の削減又は追加、内服薬の用量の変更、作用機序が異なる同一効能効果の内服薬への変更。

注15. 薬物有害事象の存在や服薬過誤、服薬アドヒアランス低下等のおそれのある患者に対して、処方の内容を総合的に評価した上で、当該処方の内容を変更し、当該患者に対して療養上必要な指導等を行うこと

※②は、すべての施設がお答えください。

② 退院時薬剤情報連携加算 <sup>注16</sup> （期間：令和3年6月の1か月間）は算定しましたか。（○は1つ）	
01. 算定あり	02. 算定なし → ②-1へ
▶「01.算定あり」を選択した場合、算定件数をご記入ください。	
	( ) 件／月 → ③へ

注16. 保険医療機関が入院前内服薬を変更した患者又は服用を中止した患者について、保険薬局に対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、その理由や変更又は中止後の当該患者の状況を文書により提供した場合に加算(60点)

※②-1は、前記②で「02.算定なし」を選んだ施設がお答えください。

②-1 算定できなかった理由としてあてはまる番号をお選びください。（あてはまる番号すべてに○）	
01. 該当患者（退院時薬剤情報管理指導料の算定対象）がいないため	
02. 該当患者（入院前の処方内容に変更または中止の見直しがあったもの）がいないため	
03. 患者又はその家族等が保険薬局に情報提供することを拒否したため	
04. 患者又はその家族等が情報提供先の保険薬局を選択しなかったため	
05. 文書の作成に時間がかかるため	
06. 保険薬局からのフィードバックがないため	
07. 薬剤師のマンパワーが不足しているため	
08. 院内の方針として、退院時薬剤情報連携に重点を置いていないため	
09. その他（具体的に：_____）	
10. 変更又は中止の見直しを実施していないため	

※③は、すべての施設がお答えください。

③ 貴施設では、外来化学療法を実施していますか。（○は1つ）	
01. 実施している → ③-1へ	02. 実施していない → ④へ

※以下の設問③-1は、上記③で「01. 実施している」と回答した施設の方のみがお答えください。

③-1 貴施設では、外来化学療法加算1の届出をしていますか。（○は1つ）	
01. 届出をしている → ③-2へ	02. 届出をしていない → ④へ

※以下の設問③-2は、上記③-1で「01. 届出をしている」と回答した施設の方のみがお答えください。

③-2 連携充実加算 <sup>注17</sup> （期間：令和3年6月の1か月）は算定しましたか。（○は1つ）	
01. 算定あり	02. 算定なし → ④へ
「01.算定あり」を選択した場合、算定割合をご記入ください。         対象患者の約（ ）% <sup>注18</sup> → ③-3へ	

注 17. 医師又は当該医師の指示に基づき薬剤師が、副作用の発現状況、治療計画等を文書により提供した上で当該患者の状態を踏まえて必要な指導を行った場合、月1回に限り加算（150点）。

注 18.  $(\text{連携充実加算の算定対象数の期間合計}) \div (\text{化学療法加算1の算定対象数の期間合計}) \times 100$  で算出し、小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位までご記入ください。

※以下の設問③-3～③-6は、上記③-2で「01. 算定あり」を選んだ施設の方のみお答えください。

③-3 地域の保険薬局への研修について、(1)実施頻度・(2)実施方法・(3)参加薬局の属性をお答えください。		
(1) 研修の実施頻度 (○は1つ)	01. 月に1回程度	02. 3か月に1回程度
	03. 半年に1回程度	04. 年に1回程度
(2) 研修の実施方法 (最も多いものを選択し、○は1つ)	01. 貴施設にて対面で実施	02. 地域の薬局にて対面で実施
	03. オンラインで実施	04. その他（具体的に：_____）
(3) 参加薬局の属性 (最も多いものを選択し、○は1つ)	01. 同じ市町村の薬局	02. 異なる市町村だが、同じ都道府県の薬局
	03. 他の都道府県の薬局	04. 貴施設の門前薬局
	05. 貴施設の敷地内薬局	

③-4 他の医療機関又は保険薬局から服薬状況、抗悪性腫瘍剤等の副作用に関する情報提供等を受け取った回数（期間：令和3年6月の1か月間）をお答えください。

（ ）回／月
--------





② 病院薬剤師がどのような業務を分担すれば、病院全体の働き方改革に貢献できると思いますか。あてはまる番号をすべてお選びください。（あてはまる番号すべてに○）	
01. 病棟薬剤業務の推進	
02. 外来患者に対する患者の服薬状況等の聞き取り、医師への情報提供等の外来支援業務	
03. 救急外来における患者の服薬情報等の収集、薬物による症状の確認	
04. 定期的な検査が必要な医薬品に関する検査の提案	
05. 医師と事前に取り決めたプロトコルに沿って処方された薬剤の変更	
06. 薬局からの疑義照会への対応	
07. フォーミュラリーの作成等による処方への支援	
08. 入退院時における施設外の医師・薬剤師等との連携	
09. 医薬品に関する研修会等の開催	
10. その他（具体的に： _____）	
上記のうち、最も効果があると思う取組（上記選択肢から1つ、番号を記入）	

③ どのような取組を行えば、薬剤師の負担を軽減することができると思いますか。（あてはまる番号すべてに○）	
01. システムや事務職員等による医薬品の在庫管理（医薬品の発注・納品・管理業務、医薬品の補填業務）	
02. システムや事務職員等による物品の搬送・移送	
03. システムによる医薬品情報業務	
04. 電子カルテ、調剤支援システム、オーダーリングシステムの導入や改良	
05. 調剤ロボットやピッキングマシンによる調剤業務の機械化	
06. かかりつけ薬局薬剤師による持参薬鑑別	
07. かかりつけ薬局薬剤師によるフォローアップ	
08. その他（具体的に： _____）	
上記のうち、最も効果があると思う取組（上記選択肢から1つ、番号を記入）	

④ どのような取組が病院で行われれば、医療従事者の負担を軽減することができると思いますか。具体的にご記入ください。（新型コロナウイルスの影響に対する取組や働き方改革全般に対する取組など、自由にご記載ください）	

6. 保険薬局との連携等についてお伺いします。

① 令和3年4月～6月の期間に保険薬局からの文書による情報提供はありましたか。（○は1つ）	
01. ある	02. ない
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-right: 10px;"></div> <div>「01.ある」を選択した場合、件数をご記入ください。</div> <div style="margin-left: 20px;">（        ）件</div> </div>	
② 薬局からのトレーシングレポート（保険薬局からの文書による情報提供）の運用手順が病院内で決まっていますか。（○は1つ）	
01. 決まっている	02. 決っていない
③ 薬局からのトレーシングレポート（保険薬局からの文書による情報提供）は、誰がどこで受けていますか。（あてはまる番号すべてに○）	
01. 医師 が 診察室 で受けている	02. 医師 が 病棟 で受けている
03. 薬剤師 が 薬剤部 で受けている	04. 薬剤師 が 病棟 で受けている
05. 看護師 が 診察室 で受けている	06. 看護師 が 病棟 で受けている
07. 事務 が 病棟 で受けている	08. 事務 が 診察室 で受けている
09. 事務 が 医事課 で受けている	10. その他 具体的に： （        ）が（        ）で
11. 受け取っていない	

④ 薬局からのトレーシングレポート（保険薬局からの文書による情報提供）はどのような方法で医師に情報提供されますか。（あてはまる番号すべてに○）	
01. 医師自身が受け取る	02. 病院薬剤師から医師に対面又は電話で伝える
03. 病院薬剤師が電子カルテで医師に伝える	04. 病院薬剤師が紙カルテで医師に伝える
05. 病院薬剤師がロッカー等を介して医師に伝える	06. 看護師・事務が医師に伝える
07. その他（具体的に	08. 受け取っていない

⑤ 薬局からのトレーシングレポート（保険薬局からの文書による情報提供）の内容を医師が確認するまでにかかる時間はどの程度ですか。（あてはまる番号すべてに○）	
01. すぐに確認する	02. 当日中に確認する
03. 1週間以内に確認する	04. 次回外来時まで確認する
05. その他（具体的に：	06. 受け取っていない

薬剤部責任者票の質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。

令和3年8月31日（火）までに  
返信用封筒（切手不要）に封入のうえ、ご投函ください。